

WedsSport

YOKOHAMA

MIE TOYOPET

SHINKO

RUTEK

OGURA  
CLUTCH

FUJITSUBO  
EXHAUST SYSTEMS

WellVets  
— Animal Welfare Group —

Jms



宮田自動車商会

DiESEL AID

KFC

BRIDE  
BRIDGING INNOVATION

QuantumFire  
タイヤカーチンパカフ

OKANO  
Express

voodoo ride

RACING PROJECT  
BANDOH

## 宮田選手 GT500 初ポール獲得

### 決勝は7位

シリーズ名：2021 AUTOBACS SUPER GT Round2

大会名：2021 AUTOBACS SUPER GT Round2 たかのこのホテル FUJI GT 500km RACE

レース距離：4.563km×110周（501.93km）

5月3日（月）

予選 Q1：国本選手 6位 / Q2：宮田選手 1位 /

公式練習

□天候：晴れ | コース：ドライ | 気温／路面温度：開始前(9:00)15度／25度、中盤 16度／32度、終了 17度／33度

公式予選

□天候：曇り | コース：ドライ | 気温／路面温度 Q1 開始 17度／28度、Q2 開始 16度／28度、Q2 終了 16度／26度

5月4日（火）

決勝 7位

□天候：晴れ | コース：ドライ | 気温／路面温度 開始：21度／35度＞中盤：20度／28度＞終盤：19度／24度、ゴール：16度／23度

公式練習

2021 AUTOBACS SUPER GT 第2戦

「たかのこのホテル FUJI GT 500km RACE」が5月3日（月・祝）、ゴールデンウィーク真っ只中の好天に恵まれた富士スピードウェイで始まった。今年最初の富士でのレースとあって、両クラスの各車は積極的に周回。データ収集やマシンやタイヤの確認、ドライバーの習熟、そして午後の予選アタックのシミュレーションなどを行った。

5月の鮮やかな青空と白い雲、頂に白雪も鮮やかな霊峰富士が望め、気温 16度とやや低めだがレース観戦には絶好とも言える富士スピードウェイ。コースはドライ。公式練習は予定通り午前 9 時 05 分よりスタートした。開始前には 4 月 11 日に逝去された土屋春雄氏に哀悼の意を表する黙とうが行われた。土屋春雄氏との出会いがなかったら、この場所に 19 号車はいなかったと言っても過言ではない。



WedsSport

YOKOHAMA

MIE TOYOPET

SHINKO

NUTEC

OGURA CLUTCH

FUJITSUBO EXHAUST SYSTEMS

WellNets  
— Animal Welfare Group —

Jms

宮田自動車商会

DIESEL AID

KBC

BRIDE

DAIICHI

OKANO Express

woodoo ride

RACING PROJECT BANDOH

練習走行開始、開始 10 分赤旗が出るがその後 8 号車が 28 秒台に入り 2 番手には 17 号車、そして 36 号車、19 号車 WedsSport ADVAN GR Supra の宮田選手と続く。その後に宮田選手が 1 分 27 秒 956 のベストタイムを刻んでトップに立ったが、8 号車の福住選手も 1 分 27 秒 794 とタイムアップし再びトップに立った。

午前 10 時 40 分より GT500 クラス専有走行が始まり、ここで 19 号車 WedsSport ADVAN GR Supra の国本選手が 1 分 27 秒 753 と、この公式練習のベストタイムを記録してトップとなった。

午前中の公式練習にて、19 号車は序盤の GT500/300 混走走行にて宮田選手が 1 分 27 秒 956 と混走時間内で 2 番手のタイムを、GT500 クラス占有走行では国本選手が 1 分 27 秒 753 と、公式練習のベストタイムを記録してトップとなった。この好調さを予選、そして明日の決勝に持っていくことが出来るか。

### 予選

午前中から引き続き、晴天の中で行われる Q1 のアタックドライバーは国本選手。10 分間のセッションではじっくりと周回を重ねタイヤを暖めていく。残り 2 分を切ったところで最初のアタックに入った 19 号車は、1 分 27 秒 406 と暫定トップに躍り出る。

ただ、他車が目まぐるしくタイム更新を行い、順位が激しく入れ替わる。19 号車はそのままアタックを続けたが、チェッカー後に出たタイムは 1 分 27 秒 492 とタイム更新こそならなかったが、Q1 の順位は 6 番手となり、Q1 突破となった。Q1 の結果は 14-8-36-37-38-19-39-23

Q2 は宮田選手がアタックする事となる。Q2 に進出した 8 台の Q1 でのタイム差はコンマ 3 秒と激戦が予想される。

Q2 開始直後に 19 号車がトップを切ってコースインし、周回を重ねていく。残り 2 分を切る頃に最初のタイムアタックに入り、1 分 26 秒 496 とコースレコードまでコンマ 1 秒のタイムを叩きだし、暫定トップに躍り出る。すると、各車最終アタックでタイムを上げ、19 号車に

襲いかかり、特に 8 号車が 19 号車のタイムに 0.003 秒差と迫ったがトップ更新ならず、19 号車がポールポジションを獲得する事となりました。19 号車のポールポジション獲得は 2016 年のタイラウンド以来となります。Q2 の結果は 19-8-38-36-37-14-23-39

決勝は 500km と長丁場となります。19 号車はこの好調さを維持し、トップでチェッカーを受けるべく爆走していきます。皆様のご声援、宜しくお願いいたします。



WedsSport

YOKOHAMA

MIE TOYOPET

SHINKO

RUTEC

OGURA  
CLUTCH

FUJITSUBO  
EXHAUST SYSTEMS

WellVets  
— Animal Welfare Group —

Jms



宮田自動車商会

DIESEL AID

KBC

BRIDE

GANAI TIRE  
タイヤ・チューン・パーツ

OKANO  
Express

WOODOO RIDE

RACING PROJECT  
BANDOH

## 予選コメント

### 【国本選手】

ポールポジションをとることができました。Q1 では少しクルマ的にピーキーな感じがあってベストではなかったのですが、Q2 で宮田選手が見事に決めてくれて、すごくうれしかったですし、タイムに驚きました。明日は500km の長いレースになりますが、ポールポジションからのスタートなので、この順位を守るようにチーム一丸となって頑張りたいと思います。応援よろしくお願いします。



### 【宮田選手】

第2戦富士、ポールポジションをとることが出来ました。フリー走行から順調に走ることが出来たわけですが、予選Q1 を突破してQ2 では驚きのタイムでポールポジションを獲得することが出来てすごいです。このポールポジションは、チームやヨコハマタイヤさんのこれまでの努力が報われた結果だと思います。

明日は、この順位をキープして、トップでチェッカーを受けられるように頑張りたいと思いますので、応援よろしくお願いします。



### 【坂東監督】

正直びっくりしました。スタッフ、ドライバー、ヨコハマタイヤに感謝しています。

2016 年以来 3 度目の PP。

スポンサー、ファンの皆様、お待たせしました。

速い車と速い車に装着しているタイヤ。ヨコハマタイヤのスタッフ皆様が努力をしてチャレンジしている中でまずは予選での結果を出せた事にほっとしています。

苦労の中の結果ですので諦めない気持ちと宮田選手の渾身のアタックが噛み合ったのだと感じています。国本選手の Q1 突破と誰もが認める宮田選手の速さを証明出来て本当に良かったです。明日は 1 番前ですので長いレースですがチーム一丸となってポールスタートですがチャレンジャーとして 500 km レースを戦います。まずは予選日 1 ポイント獲得しました。応援ありがとうございました。強いチームを目指します。





WedsSport

YOKOHAMA

MIE TOYOPET

SHINKO

NUTEC

OGURA  
CLUTCH

FUJITSUBO  
EXHAUST SYSTEMS

WellVets  
— Animal Welfare Group —

Jms

宮田自動車商会

DIESEL AID

KEC

BRIDE

OKAMOTO  
タイヤ・メンテナンス

OKANO  
Express

VOODOO RIDE

RACING PROJECT  
BANDOH

## 決勝

昨日と同じ快晴に恵まれた富士スピードウェイ。今期唯一の500kmという長丁場のレースとなる第2戦は、予選で宮田選手がトップタイムを出し、決勝をポールポジションで迎えることが出来た。

気温/路面温度が21/35度とレースにはぴったりの温度となり、申し分の無いレース日和。激しい戦いが予想される中、国本選手、宮田選手は19号車を表彰台の頂点に導く事が出来るか。

スタートドライバーは宮田選手。110周の今回は最低2回のドライバーチェンジが義務付けられ、長丁場のレースを控えての戦略が重要となる。

午後2時半にフォーメーションラップを開始。2周周回して戻ってきてのスタートが切られた。しかし、スタートでのウォームアップで他車のタイヤの温まりがよく、1コーナーにて両サイドから8号車、38、36号車にパスされて4位、さらに37、14号車にパスされてオープニングラップは6番手でメインストレートに戻ってきた。さらに、後方から23号車に付かれてしまう。

しかし、3周目の1コーナーに後方の23号車から白煙が上がりストップ。すぐにSCが入ることになった。SC導入時の順位は6位。

7周目でSCが解除されてレース再開。19号車は4番手から一つ順位を落とした37号車の背後に食らいついていく。10周目の19号車の順位は変わらず6位。13周目あたりから300クラスとの激しい混走が始まった。前の37号車からは1～2秒の間隔を持って追いつくが、20周目は5位の37号車との差が約3秒の6番手のまま。

2度目の300クラスの集団が出てきた28周目も19号車は6位のままだが、前の38号車との差が縮み、30周目のメインストレートで背後に付くと、

31周目の最終コーナーでトラブルが出た38号車をパスして5位に上がる。ただ、直後、38号車のリアタイヤが取れた関係でFCY（フルコースコーション）が出て全車80km/h走行となった。33周目にFCYが解除され、レース再開。19号車はトップと19秒差の単独5位（前の37号車とは10秒差）。

レースの1/3を迎えた37周目に1回目のピットイン。

タイヤ交換とドライバー交代を行いピットアウト。暫定10番手でコース復帰。41周目に全車1回目のピットインを終了し、46周目で19号車の順位は9位となる。





47周目に300クラスの車がコース上に止まった為、2度目のFCYが出た。50周目にFCYが解除されレース再開。50周目の19号車の順位はトップから55秒遅れの9位。53周目に39号車にパスされて10番手に後退した。

74周目に2回目のピットイン。宮田選手ヘドライダーチェンジしてコース復帰。82周目に全車が2度目のピットに入り、19号車は10位。前後とのタイム差は結構あったが、宮田選手は諦めることなく、前との感覚を詰めていく事となる。

97周目に3度目のFCYが出た。99周目にFCYが解除されたが、再スタートでトップ争いの36号車が止まってしまい、19号車の順位が1つ上がり8位となる。宮田選手はここで19号車に鞭を入れ、ペナルティで後退した8号車との差を詰めに入る。残り6周で2秒台まで追撃すると、残り5周で8号車をパスして7位に上がった。

宮田選手はさらに6位を走っている39号車との3秒の差をぐんぐんと縮め、ゴール直前まで39号車との7位争いを展開したが、0.053秒届かず7位でチェッカーを受けることとなりました。

レースはファーストラップからトップが代わり、3台ものリタイヤが出る激しいレースとなったが、FCY直前にピットインしトップに出た17号車が他車の追撃に耐え、110周のレースを制した。以下、14-37-1-3-39-19-8-12-64-16-24-36-(以下リタイヤ)-38-23

悔しい結果となりましたが、一つ一つ課題を解決し、次戦の鈴鹿ラウンドでは表彰台のトップを目指し爆走していきます。

皆様のご声援、誠にありがとうございました。

## 決勝コメント

### 【国本選手】

結果は7位でした。ポールポジションからスタートして、第2スティントを走ったのですが、今回はコンスタントに走ることができました。最初はタイヤをセーブしながら走っていたのですが、後半軽くなりはじめたところからペースアップすることが出来まし、今までとは少し違うフィーリングで最後までプッシュしてゴールすることが出来たと思います。

ポールポジションからスタートしたので、もう少し良い位置でゴールしたかったのですが、僕たちが今もっている力は発揮することが出来たかなと思います。こういうレースを続けて、もっと上位でレースが出来るようにしたいと思います。応援ありがとうございました。

### 【宮田選手】

決勝7位でした。ポールポジションからのスタートということで頑張ったのですが、ブリジストン勢に対して厳しいスタートとなりました。その後のペースは良くも悪くもなくという感じだったのですが、全体を通して戦えるポジションをキープし、最後のスティントは30秒前半から中盤の良いペースで走ることが出来ました。今後につながるレースが出来たと思いますし、予選も調子が良かったので、これから得られたデータをしっかり分析して、次戦以降につなげられるように頑張っていきたいと思います。今回も応援ありがとうございました。



## 【坂東監督】

ポールポジションからスタートして 7 位ゴール、5 ポイントを獲得しました。他メーカーのタイヤの温まりの方が若干有利な部分もあって、スタートで順位を落としてしまったのですが、ペース的には悪くはなく、今まで僕たちが課題と思っていたところも、路面温度やコンディションによってはタイヤも良い状態に機能してくれました。正直、FCY が出そうな直前にピットに入っていれば、もちろん展開は違っていたのではないかと思います。最後まであきらめない気持ちをみなさんにお見せできたと思います。

昨日はポールポジションが取れて最高の 1 日でしたが、僕たちはチャレンジャーとして課題があるなか、戦いました。次戦の鈴鹿、そして僕たちが得意とするもてぎ、菅生に活かせるレースになったと思います。正直、GT500 で勝つことの難しさも実感していますし、ピット戦略ひとつとっても、その判断が 1 秒違うだけで、順位を大きく左右してしまうので、もっとストイックに、もっと細かい情報を収集して、ドライバー 2 人を輝かせてあげられるようなチームにしたいと思っています。今回はポールポジションから 7 位という結果に、がっかりされた方々もいらっしゃるかもしれませんが、みなさんの応援の力でチェッカーを受けることができたと思っています。今回も、たくさんの応援ありがとうございました。